

歯ッピ一通信

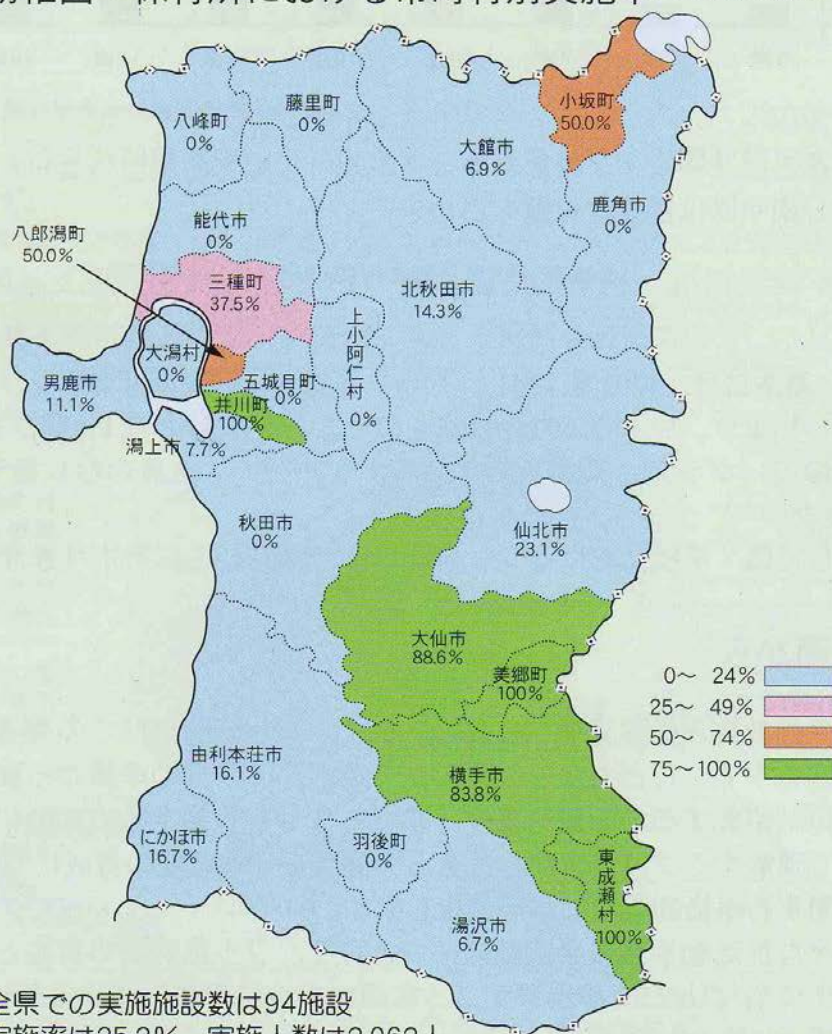
第三号

みんなで守ろう秋田っ子の歯

秋田県はむし歯予防のためにフッ素洗口をすすめています

むし歯予防効果が高いフッ素洗口を園や学校でみんなで一緒に行いましょう！

幼稚園・保育所における市町村別実施率 H20.2.1現在



人々が健康な歯で暮らすことができるように歯の健康づくりを進めるためには、個人の努力も必要ですが、社会からの支援がとても重要となります。

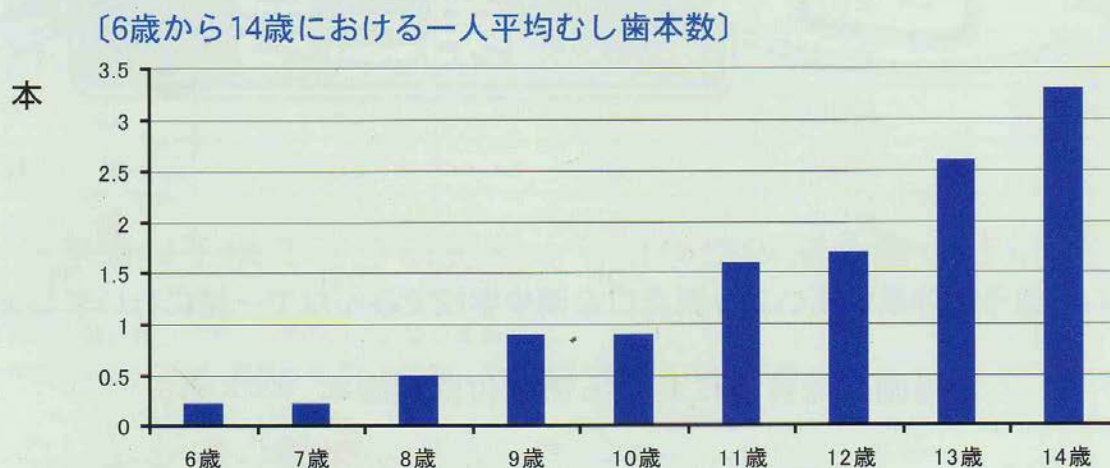
保育園や学校でみんなで行うむし歯予防のためのフッ素洗口は社会的支援の典型と言えます。

クラスの子どもたち、保護者、先生、学校関係者の協力体制によって保育園や学校の歯科保健活動にフッ素洗口を導入して継続していきましょう。

秋田県はむし歯予防のためにフッ素洗口をすすめています。 なぜ保育園や学校でフッ素洗口をするのでしょうか？

歯科医学の面から

1.むし歯にかかりやすい時期～保育園、幼稚園、小・中学校



(平成17年度歯科疾患実態調査結果より)

むし歯は歯が生えて数年間にかかりやすく、とくに、小・中学校時代にむし歯が発生します。学校保健でのむし歯予防は重要な位置を占めます。

2. 集団で行うフッ素洗口は、科学的根拠に基づいたむし歯予防方法として認められています。

集団で行うフッ素洗口は、歯の溶け出し（脱灰）を抑え、脱灰部分カルシウム分の再沈着（再石灰化）を後押しします。5～10ccの洗口液を口に含み、30秒から1分間ブクブクうがいする簡便な方法ですので、クラス全員が手軽に実施でき、クラス全員のむし歯予防効果をあげることができます。

むし歯予防として園・学校におけるフッ素洗口は、優先して採用すべき方法です。

学校教育の面から

- 1) 学校保健は保健教育と保健管理からなっていて、フッ素洗口はこの両者を満足します。先生方の見守る中で、こどもたちがみんなで協力して、その準備から実施と後片付けを行うフッ素洗口は協働する力を養います。また、なぜむし歯予防のためにフッ素洗口を行うのかを学んで理解するプロセスから、自らの健康を守る態度の育成につながります。
- 2) 学校保健に関する組織的な活動が活性化します。クラスの様々な係活動や委員会活動の一つとして、フッ素洗口の実施と継続は保健委員会活動の活性化にもなります。
- 3) 学校能率の向上に寄与します。フッ素洗口の実施により、むし歯の発生を最小限に抑えることで、これまでのむし歯による歯痛から解放され、心身共に健康を享受して、運動と学習の能率を向上できます。

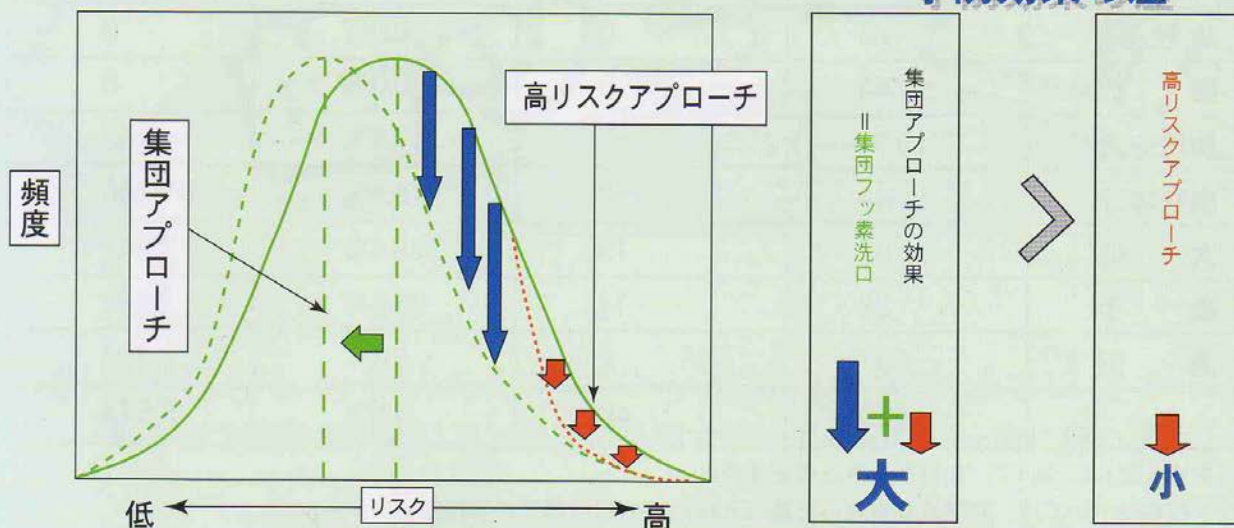
なぜ集団でフッ素洗口をするのでしょうか？

むし歯を含め病気の予防には、高リスク者だけに行う予防（＝高リスクアプローチ）と集団全体を対象に行う予防（＝集団アプローチ）があります。 ※リスク＝危険度

"集団"でフッ素洗口を行うメリット

学校などで行う集団フッ素洗口は、集団アプローチに相当し、集団全体へ予防効果が期待され、集団全体のむし歯リスクが減少します。

予防効果の差



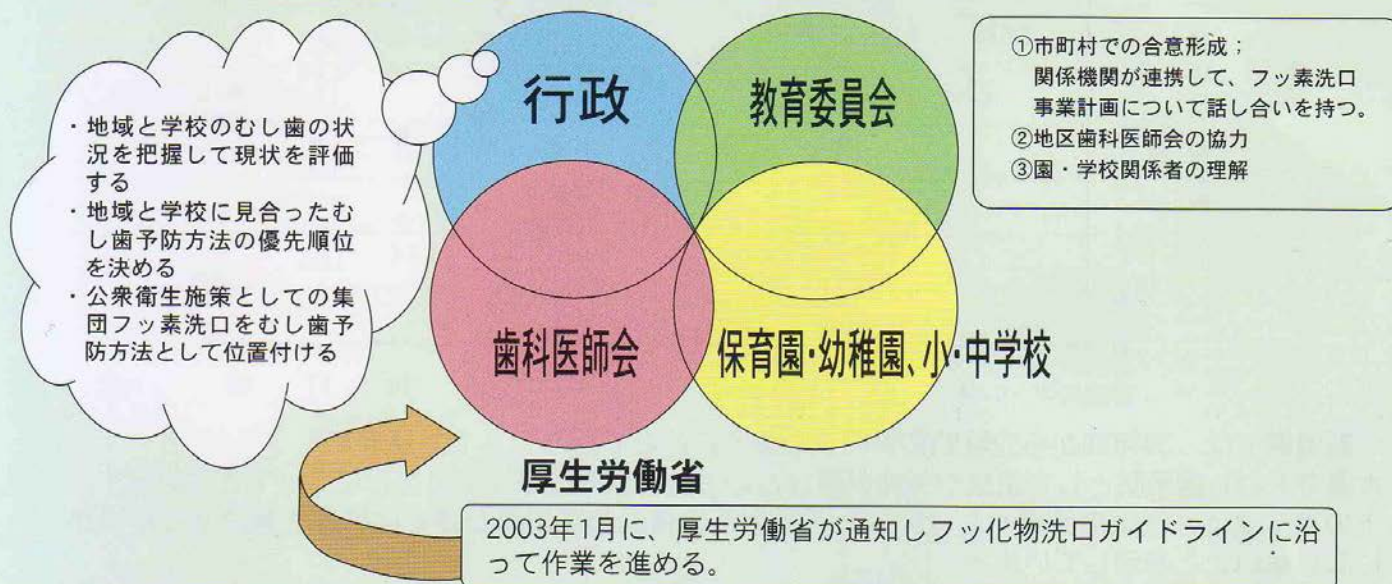
参考資料：厚生労働省HP・生活習慣病健診・保健指導の在り方に関する検討会資料 「予防医学の戦略～ハイリスク・戦略とポピュレーション戦略～」

フッ素洗口は関係者の連携が大切です。

秋田県は市町村等フッ素洗口推進事業として市町村等が実施するフッ素洗口事業*に対し技術支援をおこなっています。

*秋田県が平成16年度から3年間、モデル事業として実施してきた「お口ブクブク大作戦」の継続及び拡大を図るため、平成19年度から「市町村等フッ素洗口推進事業」となりました。

県と市町村とのフッ素洗口に関する役割分担について



- ☆ 園・学校単独よりも、市町村全体の事業として取り組みましょう！
- ☆ フッ素洗口について保護者に十分理解してもらうことが重要です。

保護者のフッ素洗口の実施希望の確認より実施

フッ素洗口推進のための3つの力

- ① こどもの健康を守る人々の情熱
- ② 科学的な正しい知識
- ③ 信頼と協力を背景とした社会的支援活動

市町村等フッ素洗口推進事業 小・中学校実施状況(平成20年2月1日現在)

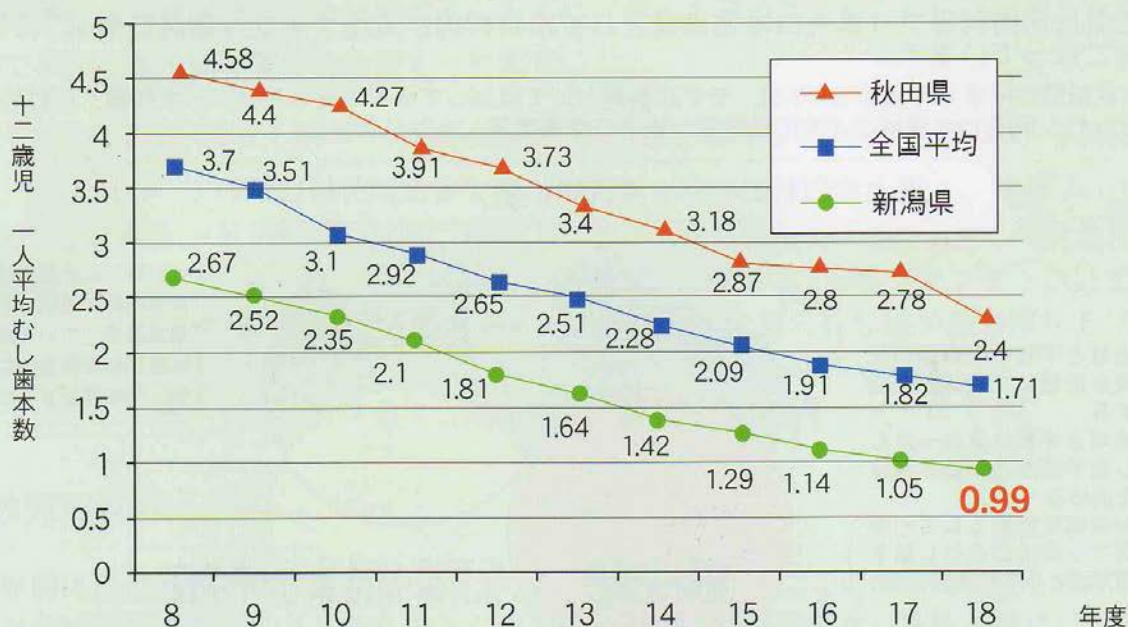
保健所名	全学校数	実施学校数	実施学校率	実施人数
大 館	54	0	0.0%	0
北 秋 田	23	0	0.0%	0
能 代	45	0	0.0%	0
秋田中央	112	2	1.8%	465
由利本荘	44	3	6.8%	296
大 仙	67	19	28.4%	2,347
横 手	38	14	36.8%	2,362
湯 沢	37	2	5.4%	204
計	420	40	9.5%	5,674

(注) 「実施人数」について、全員から申込書受理済み。

(注) 全学校数については、義務教育課から把握(平成19年4月1日現在の学校数)

縮まらないムシ歯の健康格差！

[12歳児 1人平均むし歯本数 秋田県、新潟県と全国の比較]



新潟県では、37年前から先駆的に集団フッ素洗口に取り組んできております。

本県でもむし歯予防として歯磨や甘味制限などの生活習慣の改善指導等をおこなってきています。上のグラフは、従来の歯磨や甘味制限などの生活習慣の改善指導だけでは格差を解消する解決策にならないことを示しています。

むし歯の健康格差を解消するにはどうすればいいと思いますか？

むし歯予防にフッ素洗口を実施してきている新潟県に学ぶことが必要ではないでしょうか。

- ◆ 「歯ッピー通信」第3号の発行にあたり、東北大学病院附属歯科医療センター予防歯科田浦勝彦先生よりご協力いただいております。

ご質問・ご意見はこちらまで

発行：秋田県歯科医師会

〒010-0941 秋田市川尻町字大川反170番102

TEL018-865-8020 FAX018-862-9122

http://www.akita-da.or.jp/index.html E-mail:madoguchi@akita-da.or.jp

協賛：秋田県、秋田県歯科衛生士会